日本庭園学会ニュース
The Academic Society of Japanese Garden News

NO.76
平成25年

平成25年度 日本庭園学会関西大会 案内

発行　日本庭園学会（会長 鈴木誠）
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科
ガーデンデザイン研究室内
TEl(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
http://wwwsoc.nii.ac.jp/asjg/

平成25年度　日本庭園学会関西大会　案内

■日時・場所

平成25年11月9日（土）、10日（日）

9　日（土）：龍谷大学大宮キャンパス南校舎203

10日（日）：京都市左京区下鴨神社周辺

（集合場所：出町柳三角州公園北端）

■会費(2日間)

学会員（一般）:2,000円

非会員　　:4,000円

※ともに資料代 1,500円を含みます。

※学生は、会員の場合1,500円、非会員の場合は3,000円とします（ともに資料代を含みます）。

※大会参加費については、1日のみの参加でも上記金額を徴収します。

※情報交換会（11/9、会費4,000円）は、私費による参加を原則といたします。

■ 参加申し込み

下記の内容を明記の上、問い合わせ先までお申し込み下さい。なお、今回は既に多くの参加申し込みがあるため、当日のご参加はご遠慮願う場合がありますのでご了承下さい。

また、現地検討会の石村亭へのご参加は、30名限定となっています。こちらにつきましても予めご了承ください。

【記載事項】

・氏名（必須）

・所属（随意）

※勤め人であれば組織名、学生であれば学校を記載下さい。

※社会人か学生かについては必ず御記載下さい。

・電話連絡先（随意）

・参加希望日（必須）

11月9日／○か×を御記載下さい。

11月10日／○か×を御記載下さい。

懇親会／○か×を御記載下さい。

・会員・非会員（必須）

※いずれかを御記載下さい。

・備考（随意）

※当会もしくは当学会について何でお知りになられたかを御記載頂ければ幸いです。

■申し込み期限

11月1日（金）

※10日の見学会の石村亭については、人数が制限されております。会員が優先されますので予めご容赦下さい。非会員の方につきましては、現時点までの先着順かつ9・10日の両日参加の方が優先されますので、併せてご了承願います。

■問い合わせ・参加申し込み

仲 隆裕（日本庭園学会関西支部）

FAX:(075)791-9342

今江秀史（日本庭園学会関西支部）

メール：hideimae50@kyoto.zaq.jp

※お問い合わせは、極力、FAXにてお願いいたします。

■会場までのアクセス

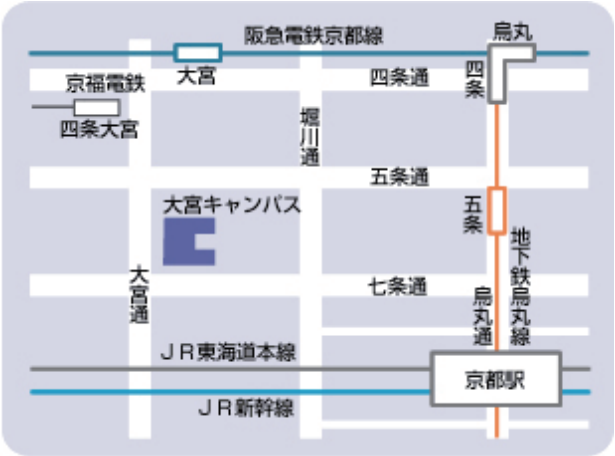
▼11月9日の会場（龍谷大学大宮キャンパス）へのアクセス

（1）JR東海道本線・近鉄京都線「京都」駅下車、北西へ徒歩約10分（市バス約3分）

（2）京阪本線「七条」駅下車、西へ徒歩約20分

（3）阪急京都本線「大宮」駅下車、南へ徒歩約20分（市バス約5分）

※堀河通側（西本願寺境内東南角付近）から入場されると近道です。



『龍谷大学大宮キャンパス』アクセスマップ

▼11月10日の集合場所（三角州公園）へのアクセス

（1）京阪出町柳駅下車　5番出口より西へ徒歩約5分

(2) 叡山電鉄出町柳駅下車、西へ徒歩約5分

『出町柳三角州公園』アクセスマップ

スケジュール

■9日（土）

8:45　受付開始

9:00　開会・開会挨拶・奨励賞授与式

＜公開シンポジウム＞

9:15　主旨説明

9:20-11:30　話題提供

(9:20-9:50)

1. 町家・民家の庭の現地調査手法

村上真美（京都府文化財保護課）・木下紘子

(9:50-10:20)

2. 生活と住まいの相互関係

今江秀史（京都市文化財保護課）

(10:20-10:50)

3. 町家・民家の庭の形態と配置

仲隆裕（京都造形芸術大学）

(10:50-11:30)

パネルディスカッション

11:30-12:30　昼食（理事会）

12:30-17:30　研究発表会

(12:30-13:00)

1. 須磨地方に於ける近代庭園の遺構について

西　桂（兵庫県立淡路景観園芸学校非常勤講師）

概　要：風光明媚で温暖な須磨地方（神戸市）は、山陽電鉄が明治21年に開通してより、関西在住の財界人や外国人によって庭園や別荘が盛んに造営され、近畿地方に於ける別荘地の先駆けをなすものであった。しかし戦後は、富豪な邸宅跡の公園化や、維持管理の問題から、年ごとに姿を消しつつある。これらの建造物や庭園が、当時どのようなものが造られ、現在どのような現状にあるのかを、遺構を中心に報告するものである。

(13:00-13:30)

2. 近代福岡における煎茶趣味の流行と庭園への影響

正田実知彦（福岡県教育庁総務部文化財保護課）

概　要：江戸中期以降に流行した煎茶の美意識が、近代庭園の空間構成や意匠等に大きな影響を与えていたことが知られている。東京や京阪地方だけでなく、地方においても開催された煎茶会の様子は、煎茶会図録（茗讌図録）に記録され、その様子を現在に伝えている。福岡県内における煎茶会の様子を記録した『蕩々園華甲茗燕圖録』等の煎茶会図録を参考に、近代の福岡県における煎茶趣味の流行を整理し、県内に所在する近代庭園における煎茶的要素について考察を加える。

(13:30-14:00)

3. 旧吉田茂邸庭園についての考察

白井　充

概　要：神奈川県大磯町には、明治期以降多くの政財界の要人が別邸を構え、邸宅と庭園が組み合わさった独特な邸園文化を形成してきた。しかし、その多くが開発、分譲され姿を消している。その中で、吉田茂元総理大臣の邸宅は都市公園として神奈川県が買収し、保全されることとなった。吉田五十八設計の邸宅と中島健設計の日本庭園の組み合わせであり、特に中島健の初期の作品である。9月22日に公園として庭園部分を公開したが、その復元作業の実際、そして復元作業を通じて判明した花を多用した庭園を明らかにする。

(14:00-14:30)

4. 對龍山荘庭園　百年後のための庭園管理計画-Ⅰ百年の変遷をたどる

加藤武史・小山由美・加藤友規（植彌加藤造園株式会社）

概　要：本発表の趣旨は、今後の對龍山荘庭園のあるべき姿を見出すための、庭園の歴史的変遷と現状課題の把握である。對龍山荘庭園は明治29年から32年まで伊集院兼常の別荘であり、その後、清水吉次郎を経て、市田弥一郎が譲り受け明治34　年から38　年にかけて改修が行われた。作庭は七代目小川治兵衛（植治）によるものである。建築と庭園が一体となり、對龍台からは東山を借景とした雄大な景色が、聚遠亭からは深い庇により凝縮された落ち着きのある景色が広がる。作庭から百年以上が経過した今日、伊集院時代から市田時代、そして現在までの変遷を改めてたどり、對龍山荘庭園の百年後のあるべき姿を見出し、そのための庭園管理計画を現場の庭師目線から考察していく。

(14:30-15:00)

5. 桂の月　桂離宮庭園の月見台の方位と池の月について

鈴木　蔀（鈴木蔀建築事務所）

概　要：古来桂の里は月の名所であり、「月の出の方向を向いた月見台」といった論が一般的であるが、月の出の方位は19年周期で毎年変動することが知られている。今回天文シュミレーションソフトにより月の運行軌跡図を作成し、また樹高を取り入れた庭園の断面図と合わせることで、既往の各論を検証し、また池に映る月の挙動も確かめることが出来た。これまでの桂離宮の「月の出方位論」や「月映論」に一石を投じ、広くご批判を仰ぎたい。

(15:00-15:30)

6. 福井県の三田村氏庭園の特色について

藤田若菜（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）

概　要：三田村家は、戦国期には越前和紙の生産地域の中心的地位にあったとされる豪商の家である。三田村家には、江戸期の建物指図や明治期の庭園鳥瞰図、福井藩主の御成のようすが文書の覚で伝わっており、現存庭園と照合することで､庭園構造の特徴を窺うことができる。越前における豪商の屋敷の庭園のなかでも、古記録とと

もに現存する貴重な例として紹介し、越前に作庭された庭園の特色について検討する。

(15:30-16:00)

7. 内山永久寺庭園の庭園形式について

菅沼孝一（京都産業大学　日本文化研究所）

概　要：鳥羽院の勅願で平安末期に創建された内山永久寺は明治初年頃の廃仏毀釈により廃寺となった。寺域の中心に位置する本堂池は現存しているが、その成り立ちや構成・意匠・形式についての研究は不十分な状況である。今回は資料の再検討と現地調査による地形の検討から考察を述べる。

(16:00-16:30)

8. 作庭記に学ぶ事業戦略

森　泰規（株式会社　博報堂　コンサルティング局）

概　要：「作庭記」に始まる日本庭園コンセプトを読み解くと、北米を中心として形成されている最新の経営理論と非常に近く感じられる。今回の発表では、俊綱のテキストと、ハーバード・ビジネススクールのマイケル・ポーターを中心とした経営戦略論との間にみられる類似性を提示し、日本庭園（その派生としての芸術文化を含む）に学ぶことで、事業を強くするためのエッセンスが見えてくるという筆者の仮説を提示する。ご意見を大いにたまわりたい。

(16:30-17:00)

9. 名勝無隣庵庭園の緊急修理にみる保存管理の継続性

阪上富男・加藤友規（植彌加藤造園）、吉村龍二（環境事業計画研究所）、仲隆裕（京都造形芸術大学）、今江秀史（京都市文化財保護課）

概　要：明治の元勲・山縣有朋の京都の別荘であった名勝無鄰庵庭園は、昭和 16 年（1941）以降、一地方自治体が所管している。それは、同庭園が美術館や動物園など行政が所管する施設と同様の位置づけであり、出自そのままの保存管理が断絶していることを意味する。行政の所管という枠組みにおいて保存管理を継続するなかでの緊急修理の意義について検証する。

(17:00-17:30)

10. ＜には＞の語義にみる＜庭＞の原義についての試論

今江秀史（京都市文化財保護課）

概　要：＜庭＞の語源には諸説あり、その一つに＜には＞を語源とする説がある。通常＜庭＞は、場所の謂いを語義としているため、＜には＞も同じく場所を意味していると考えられる傾向にある。しかし＜には＞の語義を探求すると、＜には＞は名詞ではなく格助詞の組み合わせであり、場所自体というよりも動きや状態の成り立つ状況を言い表していることがわかる。もし＜庭＞の語源が＜には＞であれば、その原義は特定の場所を取り巻く移行的な現象であったと推察される。

18:30-20:30　情報交換会

会場：京都きよみず花京か

住所／京都市東山区清水四丁目 200

TEL ／ 075-561-9900

会費：4,000 円（ちゃんこ鍋）

※参加をご希望の方は、かならず期限内にお申し込み下さい。コースメニューである都合上、当日の参加は受け付けられません。

▼京都きよみず花京か　へのアクセス

JR「京都駅」下車→市バス 206 号系統で約 10 分「五条坂」下車→徒歩約 5 分、又は、京都本線「清水五条駅」下車→徒歩約 20 分

『京都きよみず花京か』アクセスマップ

■ 10 日（日）

9:00　受付開始

※集合場所：出町柳三角州公園北端（京都市左京区下鴨宮河町）/ 京阪出町柳駅下車出入口４番を出て北上、すぐ西手の小橋を渡ってすぐ南側

9:30　現地検討会　開始

※石村亭のみ 30 名限定。参加は申し込み順ですが、会員が原則優先されます。

（9:30-11:00）

＜旧三井家下鴨別邸＞（旧家庭裁判所宿舎）

旧三井家下鴨別邸は、下鴨神社の社叢（糺の森）の南端、高野川と鴨川の合流地点の北岸に所在する。三井総領家である三井北家の別邸であり、大正 11 年（1922）当地にあった三井家の祖霊社の造替ののち，鴨川下流（木屋町三条上る）にあった木屋町別邸の主屋を移築し、これに増築を加えたものである。昭和 24 年（1949）に京都家庭裁判所に譲渡され、所長宿舎として使用された。

主屋は木屋町別邸から移築された建物で、明治 13 年（1880）に建設された。南側に設けた庭園に面して立ち、一階に次の間付の八畳、二階に十四畳の座敷を構え、正面に縁をまわした開放的なつくりとし、簡素な意匠でまとめられている。当初は座敷が鴨川に面して建てられていたものであり、望楼を含めて建設当初の姿を良好にとどめている。

玄関棟は、大正 14 年（1925）に竣工し、和風の意匠を基調として主屋との調和をはかるが、全体的には洋風建築の寸法を採用し、天井高を高くとるなど近代的な趣をもつ。

茶室は、本別邸計画時にすでにこの地にあった建物で、建築年代は詳らかではないが、床構えを踏込床のみとする簡素なつくりとしながら、次の間に梅鉢型窓と丸窓を対面に切った奇想の構成である。

（11:00-14:00）

＜石村亭＞（2 班体制で交互に昼食）

二条寺町で度量衡店を営みつつ、貿易で財をなした塚本儀助が明治末から大正初年にかけて営んだ別邸「東林庵」を原型とするもので、昭和 24 年より谷崎潤一郎が住んで「潺渓亭」と名付け、『新訳源氏物語』、『鍵』等の名作を生んだ場として知られる。『夢の浮橋』では主人公らの住む家のモデルとなり、邸内の風景が克明に描かれている。昭和 31 年に日新電機株式会社が譲り受け、谷崎より「石村亭」の名を贈られた。谷崎の現状維持の希望を受け継ぎ、現在に至るまで丁寧に管理されている。

敷地は下賀茂神社の東に隣接する 600 坪である。池庭を中心に、母屋、書斎、茶室、洋館が独立して点在する。各棟は比較的小規模である。元来は母屋と池庭の範囲が別邸敷地であり、南側の書斎部分は塀で仕切られ、借家として建設されたものだった。

『京都府の近代和風建築　京都府近代和風建築総合調査報告書』（平成 21 年、京都府教育委員会）より一部抜粋

15:00　閉会挨拶

15:15　終了

三井別邸（上下写真）

■

平成 25 年度　現地検討会のお知らせ

東京都内において現地検討会を開催することになりました。会員各位のご参加、お待ちしております。

日　時：平成 26 年 1 月 25 日（土）　13：30 ～ 15：30
※参加者は、当日 13 時 30 分までに、下記、文化財所在地に集合（時間厳守）。
会　場：国指定重要文化財「旧磯野家住宅（通称：銅御殿）」
東京都文京区小石川 5-19-4
※最寄駅：東京メトロ丸の内線「茗荷谷駅」下車、徒歩約 2 分（茗荷谷駅の改札は、1 ヶ所です。改札を出たら信号を渡り、信号前の派出所の脇の道を直進して下さい。）
参加費：入館料 500 円（予定）
（大谷家のご当主から建物、庭園については本会・藤井英二郎先生から解説を頂く予定です。）

【庭園の概要】

旧磯野家住宅家は、実業家・磯野敬氏が自邸として建てたもので、主屋は明治 42 年着工、大正元年に竣工し、翌年に表門や庭園が完成したとされています。
主屋の屋根や外壁が、銅板で装飾された特徴から、「銅（あかがね）御殿」と通称されています。建物部分のみが、平成 17 年度に重要文化財として指定されました。

指定からは外れているものの、庭園が付随しており、本会の藤井英二郎先生によって調査が実施され、学会誌上で報告されています。

自然地形の「谷」を巧みに取り入れた、その作庭意匠は、幽邃にして壮大であり、まさに見事の一言に尽きます。当該文化財は、例年、秋に限定公開されていますが、通常は非公開です。今回は、現在の所有者である大谷美術館のご当主から、ご配慮を頂き、庭園学会の会員限定で特別公開して頂きます。

○近隣には下記の文化施設があります。あわせての見学もお勧めです。
・東京大学理学系研究科附属「小石川植物園」（文京区白山 3-7-1）　※ 入園料 300 円
江戸時代の幕府直轄の「小石川御薬園」に端を発する。明治年間以降は、一時期、文部省の管理となったが、程なく東京大学に所管が移され、現在に至る。園内に所在する日本庭園は、第二次大戦後に整備されたもの。平成 24 年度に国史跡指定を受ける。
・筑波大学附属小学校内「占春園」（文京区大塚 3-29）
江戸時代、水戸徳川家から分家した陸奥守山藩松平家の屋敷内に設けられた庭園、占春園の跡。文京区のみどり公園課が区立公園として管理しており、江戸時代当時の名残は薄れているが、石碑などが遺されている。
※今回の現地検討会は、通常は非公開の庭園を特別に見せて頂きます。人数を確認する必要のため、参加を希望される方は、1 月 17 日（金）までに加藤あてに必ず連絡して下さい。当日、遅刻された場合、ご参加できない場合もあります。
○見学会の申込先：文京ふるさと歴史館　加藤　E メール Motonobu_Katoh @ city.bunkyo.lg.jp
もしくは、☎ 03(3818)7221・ファックス 03(3818)7210 へ

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願いします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願いします。■

協力者：北森さやか（植彌加藤造園株式会社）

日本庭園学会広報委員会
今江秀史、加藤友規
〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116
京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター気付
日本庭園学会関西支部事務局　FAX(075)791-9342